

令和7年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
59	川崎市立坂戸小学校	押田 春美

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>○明るく健康な子</p> <ul style="list-style-type: none"> ○やさしく思いやりのある子 ○よく考え行動する子 ○最後までやりとげる子 	<p>【学校生活の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一人ひとりの子どもを大切にするために」何ができるのかを考え、教職員が学校運営に参画していく。 ・子どもたちが前向きな気持ちで学校生活を送ることができるように、環境を整えていく。 ・支援教育コーディネーターを軸として、一人ひとりのニーズにあった支援ができる体制づくりに努める。 <p>【人権尊重教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感の向上を図るとともに、坂戸の地域や社会の中で生き生きと過ごせる資質を育む。 <p>【安全・安心】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制を充実させ、児童の安全・安心を確保するように努める。 <p>【地域とある学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭、地域、関係機関と連携しながら、地域とある学校づくりを進める。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 学校生活の充実	<p>【学習面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習指導の充実 ・「わかる」「できる」「楽しい」を実感できる授業づくり ・主体的・対話的で深い学びになるような授業展開の工夫 ・指導内容の明確化と評価方法の工夫 ○校内研究及び研修の充実 ・指導力の向上 ○支援教育の充実 ・一人ひとりのニーズにあった支援と体制づくり ・児童の実態把握 ・一人ひとりに寄りそった適切な指導や支援 ・算数・音楽・英語・書写・道徳等を含む専科体制の構築 	<p>保護者・児童・教職員共に90%以上が、「学習内容をよく理解しています」の設定で肯定的な回答をしている。教職員が、児童の学び合いを大切にしたり、教科ごとに児童が必要感をもって学べるように授業の準備をしたりしたこと、保護者の方が児童の学習の様子を家庭で見守り、学習内容の理解度を把握していただいたことが学習内容の理解につながったと考えている。しかし、「あまりそう思わない」「そう思わない」という意見も数%あったことから、教職員が指導や支援の方法について研鑽を積み、児童一人ひとりに、できる喜びや分かる楽しさ、集団で学ぶよさを味わわせることができるよう、さらなる指導力向上が必要である。</p>	<p>子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」の土台となる、学校生活への意欲を高められるように、校内研究や研修を通して指導力向上をめざすとともに、「わかる」「できる」「楽しい」を実感できる授業づくりに今後も取り組んでいく。また、児童の実態を把握し、一人ひとりのニーズにあった指導や支援の方法を再考することで、児童が自分自身の学び方を知り、意欲的に学習に取り組むことができるよう個に対する支援も継続して行っていく。さらに、個人面談などを通して学校での学習の様子を伝えたり、家庭での児童の様子を聞いたりして学校と家庭とが学びの継続に向けた連携を強化する。</p>
2 学校生活の充実	<p>【生活面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主体的な態度の育成 ・当番や係、委員会等の取組の充実に向けた価値づけ ・主体的に行動できる環境づくり ・望ましい人間関係の形成 	<p>児童・保護者・教職員共に、90%以上が「自分の役割に取り組んでいる」と肯定的に回答している。学校行事・委員会活動・クラブ活動以外にも学級での係活動や実行委員など、児童が活躍できる場を教職員が工夫してきた成果が児童の意欲につながったと考えている。責任をもって取り組める児童は多いが、工夫することに関しては手立てが必要になってくる場合があり、今後も活動の場の充実が必要である。</p>	<p>当番、係活動、実行委員、委員会、クラブ、校外学習など、児童が積極的に取り組んでいける場を設定していく。教室や屋上、体育館、高津中学校の校庭など、様々な場所を活用しながら学習活動を進め、どのような活動をすれば子どもたちが楽しく学校生活を送ることができるのかについて引き続き検討と改善に努めていく。また、異学年交流やイベントを児童主体で企画するなど、誰もが楽しくなるようなことを子どもたちと一緒に考え学校生活の充実を図っていく。</p> <p>望ましい人間関係づくりにつながる挨拶については、教職員自らが積極的に挨拶をすることで、児童に範を示すとともに、挨拶することで他者との心が通い合うことの良さを伝えていく。</p>

3	<p>学校生活の充実</p>	<p>○児童支援の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の意識の向上 ・相談できる雰囲気や環境づくり ・支援教育コーディネーターを中心とした支援体制の充実 ・次年度への引継ぎ ・関係機関との連携 	<p>「学校で困った時に、友達や先生に相談しています」という設問に対し、昨年度同様90%以上の児童は「そう思う」「ややそう思う」と回答をした。一方保護者は、昨年度同様児童・教職員に比べ「あまりそう思わない」「そう思わない」という回答が多い結果となった。児童は、家庭で友達や先生に相談したり解決したりしたことはあまり話さず、相談せずに困っていることを話していると考えられる。また、学校で相談できていない児童の中には、援助要求が苦手だったりどう伝えればよいかわからなかったりするケースもあるように感じている。</p>	<p>家庭と協力して児童を支えていけるよう、相談しやすい雰囲気や環境づくりに努めていくと共に、「SOSの出し方・受け止め方教室」も継続し、「先生や友達に相談することは悪くないこと」や「相談することによって、解決することのよさ」について子どもたちに伝えていく。</p> <p>支援教育コーディネーターを中心にして、経験の浅い教職員が児童指導・支援の方法を学ぶ機会を設定していく。</p> <p>次年度への引継ぎを丁寧に行い、教職員が自分事として捉え、児童への継続的な指導や支援ができるようにしていく。</p>
4	<p>学校生活の充実</p>	<p>○健康教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キラキラタイムの活用 ・健康的に生活できる基礎づくり ・栄養士による食育 ・養護教諭による健康教育 	<p>校舎解体その他工事の為校庭が使用不可となっていることから、体力向上のために、キラキラタイムを設定したり、休み時間に体育館や屋上、ミニ校庭を開放したりしてきたことで、「学校で元気よく体を動かしています」の質問で、87%の児童からは、体を動かしているという肯定的な結果を得ることができた。しかし、昨年度より10ポイント減ったものの、保護者の方々からは、「そう思わない」「あまりそう思わない」という意見が、まだ32%あったことから、活動の取組の継続と取組についての保護者への周知が必要と考えている。</p> <p>一方で今年度より校舎が新しくなり、教室や廊下が広くなったり、窓が増えて見通しが良くなったりしたことが、安全な学校生活を送ることができていると感じられることにつながった。食育の面では栄養士による巡回指導、安全の面では養護教諭による保健指導など健康についての指導を行っていることも児童が自分の健康や安全について意識することにつながり、「日頃の生活の中で、自分の健康や安全について意識しています」の質問で90%以上の児童から肯定的な回答を得ることができた。</p>	<p>次年度は、キラキラタイムの設定、体育館、屋上、ミニ校庭の開放、放課後の校庭開放を継続し、体を動かす機会を計画的に増やしていく。</p> <p>栄養バランスのとれた食事と運動、衛生面に気をつけることが健康な体につながっていくことを子どもたちに伝え、子ども自身が自分の健康や安全について意識できるようにしていく。</p>
5	<p>人権尊重教育</p>	<p>○人権尊重教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による人権教育の実施 ・人権意識の向上 ・いじめや暴力は許さないという環境づくり 	<p>保護者・児童・教職員共に「そう思う」「ややそう思う」という回答が90%を超え、昨年度に引き続き坂戸小の児童の素直で優しい側面が現れていると感じている。その一方で、「あまりそう思わない」「そう思わない」という回答が数%あることを踏まえ、今後も特別活動・共生共育プログラム・人権尊重教育などを計画的に実施し、自他共に大切にすることを育てていくことが必用だと感じている。</p>	<p>困っている子に優しく声をかける子どもの姿を多く見かける。日々の学校生活の中で、心の優しさ・あたたかさが感じられる行動を価値づけながら、思いやりの心情を育むように努めていく。また、研修等を通して、いじめや人権への意識を向上させると共に、児童が心穏やかに過ごせる環境づくりに努める。</p>

6	<p>人権尊重教育</p>	<p>○キャリア教育の推進 ・人権を尊重しあえる望ましい人間関係の形成 ・自己肯定感の向上 ・集団における所属感の育成 ・キャリア在り方生き方教育の推進 ・「かわさき共生＊共育プログラム」効果測定の推進 ・GIGA端末活用上のモラル教育の推進</p>	<p>「困ったときや苦手なことにも最後まであきらめずに取り組んでいます」の設問では、児童の半数以上が最後まであきらめずに取り組んでいると感じているが、保護者や教職員の割合は、やや低くなっている。学校生活の中では様々な困難が予想されるが、児童が困ったときに学校や家庭で適切な支援があり、その結果90%以上の児童が「最後まで取り組めた」と感じ、児童の自己肯定感の高さにつながっていると考えられる。「あまり思わない」「そう思わない」と回答した残り数%の児童に対しても、教職員同士や家庭とが連絡を取り合い、個に応じた支援を考えていく必要があると考えている。</p> <p>保護者・児童・教職員共に「そう思う」「ややそう思う」が多いものの、新しい校舎になったことで、校舎の使い方や遊び方などで戸惑う場面も見られた。みんなが気持ちよく過ごすことができる学校にしたいために、どのような約束と行動が望ましいのか、児童・教職員が共有するとともに、約束を守ることの大切さについても継続して指導が必要と感じている。</p>	<p>児童が物事を最後まであきらめずに取り組めるよう、一人一人の様子を丁寧にみとり、意欲の継続につながる価値づけをしていく。学習や友達関係以外の諸活動を通して培われた力が「苦手なことにも最後まで取り組む力」につながっていることから、課題を解決していくために、今後も諸活動をさらに充実させていく。</p> <p>GIGA端末については、正しい使い方をはじめ、情報モラルの大切さをその都度確認しながら、今後も継続して指導していく。学年に応じた外部講師による情報モラル教室も行いながら、保護者への啓発にも取り組んでいく。</p> <p>学校の約束を守ることが安心して安全に、仲間との楽しい学校生活を送ることにつながるということを、今後も児童に伝えていく。</p>
7	<p>安全・安心</p>	<p>○危機管理体制の充実 ・新校舎に合わせた危機管理マニュアルの改訂 ・危機管理マニュアルに基づいた訓練の実施 ・職員の危機管理に関する共通理解、危機管理体制の充実</p>	<p>今年度から新校舎となったことに伴い避難経路も新たなものになるため、まずは児童が各教室・特別教室の場所を覚え校舎内の動きがスムーズになれるように努め、その後に児童の安全・安心が確保できるように「火災」「地震」「水害」「不審者」への対応について訓練を行った。校舎解体他工事のために校庭を避難場所として使用できない状態が継続していることから、「火災」「地震」への対応としては、高津中学校への避難経路を確認したり、体育館へ避難を実施したりして訓練することができた。「不審者」への対応は、スクールガードリーダーの協力を得て実施し、児童・教職員共に対処の確認ができた。また、教員が近くにいない場合もあり得ることから、休み時間に児童だけでも避難できるように予告なしでの訓練を行ったが、日頃の訓練の成果が出て、予告なしでも避難場所への避難がスムーズにできた。</p>	<p>次年度は、年末に校舎解体他工事が終了し校庭が使用できるようになる。校庭への避難については数年ぶりとなることから、安全にできるよう動線を確認しながら「火災」「地震」発生時の避難訓練を早期に実施し、児童の安全確保に努めていく。「不審者」への対応についても継続的に実施し、児童が自分の命は自分で守れるように育てていきたい。</p>

8	地域とある学校	<p>○家庭・地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の機能強化 ・「学校だより」「保健だより」「給食だより」「ホームページ」等の積極的な活用 ・学校評価の推進・教育活動の改善 ・保護者・地域の協力によるよりよい教育活動の充実 ・地域教育学習の充実 	<p>今年度も定期的に授業参観や懇談会、面談等で学校の様子をお伝えしてきた。また、ミマモルメやホームページ等でも学校の様子を発信してきたことにより、情報発信に関する肯定的な回答は、昨年度よりポイントが増え90%を上回った。</p> <p>保護者・地域の協力による教育活動が充実しており、大根づくりやユウグレナ社による出前授業など、各学年が地域とかかわり、川崎や地域のよさを活用した学習に取り組むよう努めている。今年度もNECグリーンスイミングのスタッフの力をお借りして水泳指導を行うことができた。また、各教科等の特質を踏まえ各学年の発達の段階に応じて、地域教材を生かした教育活動を行っている。</p> <p>有志による合唱団が、地域に歌声を披露する場を設け恩返しできるような活動にも取り組んでいる。</p>	<p>今後も継続して、学校だよりを始めミマモルメやホームページ等様々な方法で学校の様子を発信すると共に、定期的に授業参観や懇談会、面談等を実施し学校の教育活動についてお伝えしていく。</p> <p>保護者・地域の協力を得ながら、教育活動を充実させ、保護者・学校・地域と共に児童の育成にあたっていきたい。</p> <p>郷土愛へとつながるように、子どもたちへ地域の大切さを伝え、自分たちが住んでいる地域へ感謝する態度を育てていきたい。</p>
---	---------	---	---	--

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>学校運営協議会の中で、今年度の学校の取組と学校評価アンケートの児童・保護者・教職員の回答結果から分析した成果と課題について説明をした。児童からは、今年度を振り返って「お互いに協力し合い、思いやりをもって関わることができる」「5分前行動を意識した行動ができるようになった」という坂戸小の良さと、「廊下を走ったり掃除をさぼったりする人がいる」「先生がいない時にルールを守れないことがある」など課題に感じていること、「新校舎はきれいなのでみんなが気持ちよく過ごせるようにしていきたい」というこれからの坂戸っ子としての思いについてお伝えした。委員の方からは、「放課後、家に帰る時刻など約束をみんな確認して守っていけるように頑張ってください。」「引き続き校庭がない状態が続くが、体を動かすことのメリットを委員会活動などで伝えていって欲しい。」とのご意見をいただいた。</p>	<p>教職員は、「一人ひとりの子どもを大切にすること」を意識して学年・学級経営に取り組んできた。子どもたちが力をつけていくために学校としてできることを一つでも多く実践しようと、学校教育目標と日々の教育活動を結び付けて考えられるように、校務分掌や学校評価アンケートを見直してきた。そのことにより教職員一人ひとりが学校運営に参画していくことを意識してきている。子どもたちが、前向きな気持ちで学校を自分の居場所として安心して過ごすことができるように、今後も更なる意識の向上と教育活動の充実を図っていきたい。そして、将来を担う子どもたちの社会参画に向けた資質・能力を育成する探究的な学びを充実させるために、教職員の各ステージにあったOJTに取り組み、資質・能力の向上により、きめ細やかなみとりによる一人ひとりの個にあった指導・支援をより充実させたい。加えて、教育公務員としての自覚と誇りをもった言動がとれるようにすると共に、教職員の働き方・仕事の進め方改革の方針に則った業務改善に取り組み、円滑な学校運営を行うことで児童・保護者・地域の信頼を構築できるように努め、子どもたちが安心・安全に学校生活を送ることができるようにしていきたい。</p>